

第3回 南牧村学校づくり委員会 議事録

議 事 日 程

平成28年7月22日(金曜日)午後4時30分開会

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 討議
 - ① 視察研修の感想
 - ・施設面から
 - ・運営面から
 - ② 次回視察研修について
- 4 意見交換
- 5 その他
- 6 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席委員

林 崇介	渡邊 壽美	高見澤 一男	薩田 聡	原 和則	井出 嘉也
高見澤 要	佐々木 摂	矢野 勝彦	町田 喜範	武井 晃	井出 正吉
新海 勝則	坪井 則男	渡邊 忠一郎	井出 真紀	吉澤 安則	横森 誠

(以上 18 名)

欠席2名 菊池 武元 委員 新海 秀幸 委員

事務局職員出席者

教育長 井出 英夫	教育次長 井出 浩美	学校教育係長 井出 一生
総務課長 津金 昇三	企画係長 井出 聡	

傍聴人

教育委員 井出 邦彦	教育委員 三井 三男
------------	------------

開会 午後4時30分

◎開会の宣告

事務局井出次長 それでは第3回の委員会を始めさせていただきますので、副委員長から開会のことばを、お願いいたします。

渡邊壽美副委員長 どうもみなさん、佐久穂町の小・中学校視察研修、ご苦労さまでした。それでは、ただいまより第3回南牧村学校づくり委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

◎議 事

事務局井出次長 林委員長、あいさつをお願いいたします。

林崇介委員長 はい、今日はどうも、大変お疲れ様でした。私たち、かなり長い時間、視察をして参りましたので、この会議は小一時間ということで、小さな会議にさせていただきますと思います。施設面、あるいは運営面で、今日ご覧になっていただいたコメントを教えていただきたいと思います。特に必要に応じて指名ありますが、連続して指名することはありませんので、一つ活発な、自発的なコメントをお願いします。よろしくお願いいたします。ハード、ソフト、どちらでも結構です。両方述べていただいても結構です。いきなり、必要に応じて指名する事態が発生しまして、お疲れでございますが、要さん、何か、ございますか。

高見澤要 委員 ご指名ですので、規模が、うちがなった場合を想定して考えるとだいぶ規模的に違うので、建物もクラスの数も、うちが仮になったとしても、この規模にはならないので、大きさという面ではさほど参考にならなかったかもしれませんが、二階建てということで、非常に長い造りになっていて、小・中がちゃんと分かれているということで、一旦なんですけれどもそれぞれが独立している造りになっているところ、そうだったし、図書室が特に工夫されているように、形になっているので感銘を持たせていただいたというようなところですね。一つ気になったのは、保健室が中学校のエリア寄りにあって、そこに小学校と中学校が両方入ってくるような感じになっていたのが、どうなのかなあというところは、多少思いましたけれど、そんなところですね。

林 委員長 はい、ありがとうございました。どうなのかなあというところは、好ましくないと。

高見澤要 委員 そういう意味では、それぞれにあった方がいいんじゃないかなと。

林 委員長 はい、わかりました。ありがとうございました。他にいかがでしょう。武井校長先生、どうですか。

林 委員長 次長。事務局の方で第一分科会、ということに配っていただきました。これは専門部会で、武井校長先生が配っていただいたもので非常に理解するのによくできていると。事務局の方で配っていただきました。その辺について武井先生からコメントをいただきます。

武井晃 委員 これは、昨年までの佐久穂中の菊池秀樹校長先生が、県の校長会で発表したものです。今日の教育委員会の発表と、これ読んでいただくとダブるところありますの

で、同じ説明したいと思います。まず、はじめについて書いてあるところで、6・3 制の後のところですが、子どもの発達段階を基礎充実期小学校 1 年から 4 年生、活用期小学校 5 年生から中学 1 年生、発展期中学 2・3 年と 3 期に別け、どうして別けたかというところの下 4 行くらいあとですが、低学年から続く固定的な人間関係の中で、児童の中には友達関係や学級担任中心の教師との関わりに行き詰まりを感じたり、学習面で他の児童と開きを感じて自己肯定感が薄れていたりする児童もみられた。そんなことから、集団不適応や不登校といった形で現れるケースが多くあった。こういう課題に向けてさらに中 1 ギャップに繋がりますけど、この活用期、小学校 5 年から中学 1 年生を重点的に手を入れましょうという形になったようです。それでどんなふうなことをやったかというところ、実践の概要の方ですが、(1) 5・6 年生に、これ活用期ですがね、乗り入れる教員の確保をしたと。そしてそこから、より多くの職員が 5・6 年生の学習指導に関わり、専門性を生かした学習指導を行いました。今日も説明ありましたが、そこで中学校の職員が 5・6 年生の学級担任と T T 指導を行うプランを考え、そして平成 27 年度は数学、理科、体育は、小学校 5・6 年生のところに中学校が行って T T で授業する。今日の説明では 28 年度は理科、数学と体育は小学校に行って授業教えることによって、子ども達が中学校 1 年に繋がるところで不適応を起こさないようにやっているとも見えました。

次 39 ページですが、ここでもう一つ大事にしているのが、上から 2 行目ですが、佐久穂町の将来を担う人材育成は、町の大きな課題であるということで、ふるさと学習をしているということ。そして次の欄ですが、特にキャリア教育の大きな柱として、町の 80% を占める森林資源に触れる学習から、職業として林業を体験することを取り入れるとして、これも説明あったところです。そしてその林業体験も今まではそれぞれバラバラでやっていましたけれども、小学校、中学校が系統立って下にありますが、基礎充実期、活用期、発展期、こんな 3 段階に分けて林業体験学習をやっている。それからもう一つですが、特殊なカリキュラムということで次の (3) でありますけれども、9 年間の英語カリキュラムをやっている。そこに表ありますように、英語も基礎充実期、小学校 1 年生からステップ 1、2 と最終的には発展期、英語でプレゼンテーションすると。自分の町のことを英語でプレゼンテーション発表できる、そんな目標を最終に置いているようです。それから、おわりにというところがありますけれども、中学生が一生懸命にやっている掃除の写真ですが、一生懸命にやっている姿を見て、小学生も一生懸命掃除するようになったと、というようなことを最後まとめてあります。以上です。

林 委員長 はい、ありがとうございました。自宅へ帰ってまた、ゆっくりご覧いただければ、今日の視察がぐっと効果的になるかと思います。他にいかがでしょうか。こういう時は副委員長にお願いして、何かコメントをお願いします。

渡邊 副委員長 規模の面、それから学校運営の面、本当に真剣に取り組まれている姿が分

かったわけでありますけれど、一番私思うのは、武井先生からお話ありましたように、はじめに、というところ。最初のところにあります子ども達の成長をどうゆうふうになさせていくかというところが、やっぱり一番大事じゃないかなというふうに、前からそう思っているんですけれど、そんなことを思いました。それから運営面では、特色を出してそれに向かってやっていくということは大事かなと思いました。佐久穂町では町自体が最初からそういうものを出してやってきた、というのが成功に導いたんじゃないかなと思いました。私たちもかえってそういった、これからの持って行き方というものを十分考えてやっていった方がいいかなと思います。まあ感想としては十分じゃないんですけれど、そんなふうに思いました。以上です。

林 委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。公募された安則さん、お願いします。

吉澤安則 委員 こんなに近くで、佐久穂ですか、こんな思いでやっているということに、感銘を受けたんですが、たまたま公募参加させてもらったわけですが、えらいところに公募させてもらったなと非常に反省しています。これは一年どこでは済まないなと。じっくり考えていかないと、かなり思いました。合併しても、統合にしてもまた小中一貫にしても、本当に基本的な考え方からしっかりと基本的なことを積み上げていかないと。これで答申されて結論どういうふうに出すかわかりませんが、恐らく1年2年で答申が出せるか不安になったような気がします。

林 委員長 ありがとうございます。誠さん、真紀さん、いかがでしょうか。

井出真紀 委員 私が感じたことは、学校全体がすごくゆったりした造りというか、廊下は広かったり多目的ホールというかそういったところが広がったりして、子ども達が活動する場、教室だけではなくて違うところで活動できる場所がたくさんあっていいかなあとすごく感じました。いろんなところに配慮がされていて、理想的な学校だなと思って帰ってきました。ありがとうございます。

林 委員長 どうもありがとうございます。誠さんいかがでしょうか。

横森誠 委員 今日はいいいところばかり見せてもらった感じで、これから南牧でも、考えなきゃいけない時期だと思うんですけれど、委員会の人たちが全員が同じ気持ちになって進まなければ、この道先難しいと思うんですね。だから佐久穂でもたいへん苦勞したことあると思うんです。そんな辺ももうちょっと聞きたかったなという感じもします。以上です。

林 委員長 たいへん、ありがとうございます。これからの私たち、先のことを、今、誠さんの話を聞いて、考えなければいけないと思います。次、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

薩田聡 委員 今日の佐久穂見せていただいて、すごい活気があって、人数がいなくなって複式になるよりは、みんな集まって賑やかにできたらいいかなと感じました。一つ私が、小さい時の思い出なんですけれど、小学校1年生に入った時に、確か横に中学生がいた

ような気がするんですよ。昔の学校の造りは、小中一貫という認識でよろしいんですか。

(不特定発言多数あり)

薩田聡 委員 あれは体育館が横に、共用していたということなんですか。卒業した方の意見があれば、小学校が横にあって、どういうことかなあと聞ければと思ったんですけれど。

(不特定発言あり)

林 委員長 ありがとうございます。話、関係するかどうかわかりませんが、ほとんどの学年が3クラスあって、全校が800人と非常にスケールが大きな学校だった気がします。具体的にこの南牧村では、中学校が29年度、来年からは入学生が34人ということで、35人を超えないと2クラスになれないということだから、ずっと統計的には1クラスで連続するというので、今日の佐久穂小・中のスケールの大きさは私たち考えなければいけないと思いました。では学校の現場で、雰囲気を味わっている矢野先生、いかがでございましょう。

矢野勝彦 委員 お疲れ様でございます。佐久穂、見させていただいて、やっぱり学校の中の施設規模というのは、それぞれに工夫の仕方があると思うので、大いに図書館の作りですとか理科室が小学校中学校並んで、机の高さもきちんと配慮されているとかそういった施設面のところは、本当にこれからというところだと思うんですが、やはり学校の在り方ありようとして専門部会でもこれからも当然話題になっていくと思うんですが、小中一貫といっても併設型にしていくのか義務学校にしていくのか、ここは大きな分かれ道になっていくと思いますので、そういったところの共通理解を、この場でさらにさらに深めていかないと、あとになって苦しくなってしまうというところが見えてくるかなと思います。それと今日の資料で私が真っ先に、はっと目についたのがこちらでいただいた資料です。学校のこの表紙の図ですね、この面です。佐久穂町の小・中学校が合併時にどういう位置関係にあり、どことどこが最初は統合問題を抱えていたかどう。それをまさに私、いただいた瞬間に南牧村に当てはめて考えてみました。そうすると上の西小、中央小、東小いらないですね、私たちの状況考えると。佐久中と八千穂中と隣接の八千穂小。南牧の現状で考えると、隣接の北小と中学校が隣接している。で私よく隣の南小学校に仕事で行きます。距離を測るとですね、私の車では敷地から敷地まで10.0キロ。10キロピッタリであります。北小から南小まで結構離れてるんですね。佐久穂が一番長いところが6.8キロ。これが10キロ離れているところだという現状が南牧村の抱えている問題になるところかなと見えてきますね。そうすると佐久中のところが南小と当てはめてみると、このくくりで私たちがイメージしながら学校づくりをしていくという考えで行くのが大切になってくるのかなあとと思いました。そんなところをこれから、さきほどの一体型、併設、学校理念ですね、まさに子どもを育てる理念、ですので今日の佐久穂町の学校の中の施設で私が思ったのは、本当に南牧の小・中学校がこれから生まれ変わっていくときに、地域の方々も入れるようなスペースもあっていいなあといい

ますね。学校だけに職員と子供たちが働くのでなくて、地域の本当にここにいらっしやる皆様もね、入れるようなスペースですね、そういったことがこれから南牧が発展していく、今後地域に根差して育てていくということに可能性を感じました。以上であります。

林 委員長 大変ありがとうございました。お隣の南小の校長先生、いかがでございましょうか。

町田喜範 委員 よろしくお願ひします。今日の佐久穂小・中の資料の中に、佐久東小学校ってあったんですが、私が前に教頭をしていた学校です。最初に中央小と統合してですね、一足早く閉校になってしまった学校です。統合にあたって東小で一番心配したのは、小さな学校だったので最後は23人しかいませんでしたので、そのまま大きな中央小に統合されているんで大丈夫かというんで、交流学习をたくさんしたっていう印象があります。私は4年間東小にいたんですが、人数が少ないから大規模校と一緒にした時に不登校になってしまうとか、そういうことは特になく、力のある子は児童会の代表もやってきましたし、不登校傾向のある子はやっぱり不登校傾向にいつてしまうし、その規模に係らず、その学校でしっかり力をつけていけば大丈夫なんだというのが東小の考えだったと思い出し、今日新しい学校を見させていただいて、小中一貫校としてスタートしているんですが、小中一貫でも国語・算数だとか教科の学習はクラス単位でやるので、基本的にはクラスで授業をやっているんですよ。小中一貫にする良さを考えた時に、資料でいうと、林業体験学習が各学年に位置付いているですとか、小・中で交流をやって、中学生の歌声に小学生が感動したという交流があるかとか、あるいは英語で小学校1年から力を入れて、中学校で力をつけるような学習をしているよという活動をしている。これをやっていくことが、小中一貫の意味があるんだろうなと感じました。国語・算数の学習については基本的な線は今までも変わらないと思いますので、こういう学校独自のものをどれだけ植え付けていけるかが一番大事なことだなと思いました。あと、学校を見させてもらって、非常に規模が大きくて廊下が広いので、集まったりする場とか。ただ、給食を最初のころは運ぶのに苦労したという話ですとか、スクールバスが多すぎて、最初のころは混乱してしまって、ちゃんと子どもを送り返すことが大変だったという話を聞きました。そういうところは、大き過ぎると大変なところだろうなと感じました。

林委員長 はい、たいへんありがとうございました。一男さん、高等学校の現場でおられると思いますが、何か今日見て、感想はいかがでしょう。

高見澤一男 委員 だいたい高校に進学してくると生徒は、汚たねえ、というんですよ。小学校中学校は設備はどの学校もきちんとしていて、ストーブとか暖房装置もすごくピカピカな状態で、高校に来ると石油ストーブで、校舎もかなり汚くて、なかなか直してもらってなくて、すごく高校に来ると生徒はギャップを感じているようです。そういう意味では佐久穂小・中はピカピカで、あそこから高校に行くとちょっとショックを受け

るかなあという気はしました。私も拝見させていただいて、いいなあと思ったのは、職員室が小学校と中学校が一緒に、養護学校の生徒が帰りに職員室を通りながらあいさつして帰るとか、ああいう雰囲気というか小・中一緒の先生の多い目でいろんな生徒を見ていけるというのは、すごくいいところではないかと。一つに集まる部分のプラスの面というのは、いろんな目で見れる部分があるかなと思いました。今の子ども達にある意味いい雰囲気、環境というのは、作ってやれるものなら作ってやった方がいいかなと気がしました。

林委員長 はい、ありがとうございます。区長さん方、特にご指名をするとあとで叱られますので、一つよろしくお願いします。

井出正吉 委員 指名ですので一言しゃべらせていただきます。その前から状況はいくらか知っていたもんで、それなりの規模であったというように感じております。小学校と中学校の統合とかなんだかんだあるわけですが、途中で切れる方がいいか、それとも継続で行く方がいいかということになりますと、やっぱり小さいうちは、継続の方が授業進めるうえでいいじゃないかと感じております。自分が中学校になるとき、中学校の先生が、同じ敷地の中に小学校と中学校があるのはよろしくない、南牧の環境は良くないという先生がいました。それは、中学校行ったらそれなりの気持ちと態度と行動で示す方が、中学生の子どもたちのためにいいことだと言われたことを忘れもされません。なにこの先生！と思ったのが、その時の状況です。今になれば時代が変われば、それと同じように中高一貫とかそういうことが脚光を浴びて取り上げられるようになっております。いろいろな面が時代とともに変わったり、いろいろするのは当然のことだと思って、今日は見てきました。以上です。

林委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。勝則さん。

新海勝則 委員 私も新しい学校見て大変すばらしい学校で、子ども達も元気ではつらつとしているようなところ見て素晴らしいことだと思いました。ただ、あれが南牧村の学校づくりにそのまま当てはまるというか、ある程度参考になるかなというようにいろいろ考えてみたんですけど、まず徹底的に違うのは、子ども達の数ですよ。ああいうものは南牧村としてはどういうように考えて、新しい学校づくりということ考えていくのかと、いろいろ考えてみたんですけど。確かに小中一貫校という方向も、特に南牧村のように子供の数が少ないところでは、ああいう方式も大変すばらしいのではないかと感じました。その他の運営面は、また特に学校の先生方、専門の方たちに色々検討してもらおうということで、佐久穂も大きな計画を立てて、それから段々いろいろ細かいことはそれぞれの委員会で検討されていたと聞きましたので、いろいろ参考になりました。

林委員長 はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。

坪井則男 委員 絶対言わなければいけないですか。

林委員長 指名はしないと。それでは、小一時間で会議を終えるとしております。さきほ

ど正吉さんから、区切るのがいいのかどうなのかというような話が出ました。そして次第の4番に次回視察研修について、信濃町の義務教育学校の予定がございます。これを見て、私たち具体的にかなり議論を進めていくことになりますので、いかがでしょうか次長、その辺についてご説明をしていただけたらよろしいかと思いますが。

事務局井出次長 はい、それでは私の方から少しお時間いただいて、お手元に一番下にA4一枚の紙で通知文、本日付で学校づくり委員会林委員長名で皆さんと教育委員宛に通知文あるかと思いますが、次回の先進地視察ということで北信の信濃町小・中学校を9月2日金曜日に実施する予定ですよというか、するということが決まっています。当日は遠いので一日がかりで申し訳ありませんが、委員の皆様一日お付き合いいただきたいと思います。今日のように駐車場に午前9時集合ということでお願い致します。今回は欠席される方は、事前に連絡を是非いただきたいと思います。行程については以下のとおりであります。それでは、お手元に青いカラーコピーで2種類資料があらうかと思っています。1枚ものの信濃町の青い空に風船が舞っている物、それからホッチキス止めをしてあります20ページの両面コピーの物でございます。これは先週、私が信濃町に行ってまいりまして、いただいてきた資料でございます。9月2日の当日もこの資料によって説明がされると思いますが、若干概略だけ事前学習ということで、私の方で触れさせていただきたいと思います。その方が実際、初めて行かれて聞くよりは、少しでも参考になるかなと思いますのでお願いしたいと思います。しばらく説明をさせてください。それでは1枚もののコピーをご覧ください。信濃町はまず、信濃小学校、信濃中学校とありますが、信濃小学校は統合前の小学校でありますけれど、野尻湖、古海、柏原、富士見、古間というように5つの小学校がございました。昭和60年に児童数が約1,000人であったものが、平成23年には440人ということでかなり減っております。この5つの小学校を1つの小学校に統合、それから中学校は信濃中学校ということで1つの中学校がありました。それを施設一体型の小中一貫型義務教育学校ということで、平成24年4月から開始しているんですが、本日ご覧いただいた佐久穂と信濃町の根本的な違いがございまして、佐久穂町は小中一貫型の小・中学校ですから施設はくっついていますが小学校と中学校は別組織のもので、運用で小中一貫型になっておりますが、信濃小・中につきましては、最初から、前回ご説明しました義務教育学校ということで今年の4月から制度化されているんですけども、信濃町は平成24年から義務教育学校と同じ形で小学校と中学校が全く一緒になっています。ですから校長は最初から一人しかいません。その中で1年から9年という中で一つの教職員組織の中で運営されています。制度的には、小学校、中学校なんですけど、特例といいますか、信濃町は小中一貫が全国的な先例地でありまして、小学校の先生、中学校の先生に兼務発令というのがされている。あなたはこの小学校の先生ですよ、でも中学校の先生でもありますよ、ということで両方の先生ですから一体的に運営されてしまっています。それができるんだそうです。それがはっきり制度化されて今年の28年4月から義務教育学校という名称になって、ですから4年

ほど信濃小・中学校は制度化の前を走っているんです。佐久穂との違いは、施設面は今日のように左側に小学校、右側は中学校、真中は職員室があったり図書室があったりとつなぎ型になっているんですが、全く運営面としては一つの学校になってしまっている、というところが一番分かっていたきたいとこなんですけれど。資料に戻りますが、県費職員、町費職員というのがありますが、県費職員というのは県の教育委員会採用の教員の数です。23 年、学校長が6人いたものが現在1人です。副校長というのが新しく1人任命されていますが、教頭が6人いたものが1人、教職員は40人いたものが31人と、かなり教員数は減っています。その下に町費職員というのは、補助的であったり支援的であったりということで町費、うちでいうと村費ということで市町村で雇っている先生の数であります。そちらについてはあまり変わっていませんが、図書館司書については4人減になっています。ということで県の教育委員会的には人件費の削減というものはものすごい役に立っている。それは余分な話ですけれど。裏面をお願いします。予算的、決算的なものなんですけれど、23 と 26 を比べているというのは、23 は小中一貫になる前の数字であります。決算額については23 より26 のが若干増えています。その下普通交付税基礎数値ということでありますが、23 年は小学校5校に中学校があつて、交付税算定基礎数値が1億4千3百15万円ということです。24年に学校が一つになって、それから激減緩和5年とか3年とか書いてあるんですが、結局、学校が一つになるとかかる経費も変わってきますので、国からいただく交付税というのは減ってしまうんです。それが激減緩和措置が終わって、来年平成29年には9800万になるだろうと見込みなんです。23年からは約4500万円減少します。その下に学校維持管理費ということで20年経常経費、26年決算見込云々と書いてありますが、1億6900万円かかっていたものが、1億1700万円。当然小学校の数が減っていますから減るのは当然になりますが、約5000万円ほど減少しております。ですので交付税は減りますが、毎年かかる学校の維持経費は当然減っていきますので、単に学校を減らすと村のお金が浮くんだろなというふうにはならないです。交付税が減ってしまいますので。その点も参考までに知っていただきたいと思います。次に、この綴じ込みである資料をお願いします。1 ページ目の下の段に、信濃町の人口の推移ということですが、昭和30年に1万4千人であったものが、平成22年に9千人、31年には8千3百人というような見込みを立てています。30年と22年で比べますと35パーセント減少しています。南牧ではどうかというと、南牧では30年に4100人、平成22年は3300人で、やはり30%マイナスになっていますので、それほど変わりはないですが南牧よりは人口の減が大きいということがあります。次のページをお願いします。2 ページ目ですけど、児童生徒数なんです。先ほど5つの小学校が統合したといいましたが、平成7年に1校廃校になっています。閉校ですか、実際は6つあったということで、小学校の児童数の合計が、昭和50年と比べると現在440人ということで43%も減ってしまっていると。ほぼ半数の数字ということで、ちなみに中学校は39%減少しているということで、かなり減少が大きいということのようです。その下は施設

の老朽化と耐震化ということで、それぞれあった小学校が、だいたい平成 47 年以降の建築ですので、南牧と比べると 10 年ほど信濃町の校舎が古いかといえます。次に 3 ページは、取組みの経過が書いてございますが、私が触れるのもなんですけれど、平成 16 年に町長から教育委員会に対して諮問があって、少子化による小学校の適正配置というのが諮問されたようです。その年に、適正配置の検討委員会が 18 人で組織されて、翌年の平成 17 年 12 月に答申ということで、5 校ある小学校を統合して 1 校にするという、これがこのときの答申であります。その後、4 ページ 5 ページになりますけれど、平成 19 年になって教育環境検討委員会というのが設置されました。これは何かというと、この検討委員会から小中一貫教育の研究ということで、当時ほとんど、まだ制度化もされておられませんし何もなかった小中一貫教育というものに、信濃町の教職員研修から始まって小中一貫教育の検討が始まりました。平成 20 年 3 月に教育環境検討委員会の答申ということで、現在の中学校の敷地に統合小学校を作って、そこで特色ある小中一貫教育を目指しますという答申になっています。ですから小学校を統合しますという最初に一つの段階があって、その後に小中一貫もやりましょうという、2 回の委員会というか答申があったわけであります。その後、町長が小中一貫を目指すようになってからは、町一体となって小中一貫の研究といえますか、21 年には学校づくり委員会ということで、89 人とか 28 人の大勢の方々に部会を作って、それぞれの検討をしたりということで大変な作業を経てきているということでもあります。以降は、実際行って見学していただければ分かる写真が付いておりますけれども、15 ページお願いします。15 ページ上の段に、27 年度の各学年のクラス数と人数ということでありますが、1 年から 9 年までで、3 クラスあるところが 5 学年あり、あとは 2 クラスであります。総計が 600 人ということで、やはりかなり減りながら現状は 2 クラス 3 クラスを確保しているということでもあります。16 ページお願いします。通学対策ということですが、路線バスが 7 路線、スクールバスが 3 路線、タクシー送迎が 1 路線ということで、11 台のバス、タクシーを使って通学している。朝 2 便、夕方 3 便とかあります。下に地図がありますが、信濃町は、学校がある地区、役場がある地区が町の中心地になっていますので、それぞれ中心地に向かって東や西の沢や山の中から出てくるみたいな形になっていますので、南牧とは違うなというところでもあります。ですから中心地に統合の小・中を作って、小中一貫を始めたということでもあります。以上、事前学習ということでやらさせていただきました。実際、また 9 月になりますけれど 1 か月空きますが行っていただいて、小中一貫、特に義務教育学校という部分を研究していただきたいと思います。よろしくお願いします。

林委員長 どうも、十分なお説明ありがとうございました。このあと意見交換とかその他とかございますが、武元さんは区の会議があって出席できないと話がありました。また改めて個人的に今日の感想を伺うことになっています。その他、各委員さんで立ち話等お考えをお聞かせいただければと思っています。小一時間に近づいて居てまいりましたが、特に今日の感想を述べておきたいという方がおられませんでしたら、会議を閉じた

らどうかと思いますがいかがでしょうか。

事務局井出次長 委員長。1点すみません。

林委員長 どうぞ、お願いします。

事務局井出次長 事務連絡を1点、お願いします。次の委員会の予定なんですが、8月は予定しておりません。この9月2日の信濃町の視察をしていただいて、今日の次第の一番下に書いてありますけれども、信濃町の記憶が新鮮なうちに、第4回の委員会をやっ
ていただいて、小中一貫型の佐久穂と義務教育学校の信濃町を比べていただいたような感想を、これ9月12日と書いてありますが決定ではありません。予定にしておりますけれども、また開催通知は別途させていただきたいと思っています。また、9月の第4回
の際には、県の教育委員会から先生をお招きして、国や県の動向やら、長野県下の過疎
化によるもの児童数の減少に対して、県としての援助方針みたいなものをどういうふう
に考えているかとか、他町村の様子をお話いただければなあと思っています。現在、
交渉中です。ということでよろしくをお願いします。

林委員長 はい、ありがとうございました。いかがでございましょうか。それでは会議を
閉じさせていただきたいと思いますが、皆さんどうもありがとうございました。

◎閉会の宣告

渡邊副委員長 どうもみなさん、本当にご苦勞様でございました。それでは、事務局から
連絡ありましたように9月2日、忙しい時期でありますけれども参加をお願いしまして、
3回目の学校づくり委員会を終わらせていただきます。ご苦勞様でした。

閉会 午後5時25分